第三章　第三十八軍戰鬪序列下令より終戰に至る間に於ける狀況

（出所記憶　元第三十八軍參謀　陸軍中佐　山本格男　酒井干城）

第一節　昭和十九年末に於ける佛印一般の情勢

一、比島作戰失敗の影響

國運を賭せる捷一號作戰も遂に利あらず且は歐洲に於ける聯合軍の對佛上陸の成功と潤乙の敗退ヴィシー政府の實權喪失は痛く佛印當局を刺戟し今や明に對日敵性を示し公然とドゴール政府の來援を示唆し聯合軍の勝利、樞軸軍の敗北を期待するの狀顯著たるものあり固より其の外交的措置に方りては一面協調の態度を拂拭したるには非ざれども共同防衛に關しては全く非協力にして我要望を悉く嫌惡排擯せり

他方比島作戰推移の結果今や米軍は自由に南支那海に進入し佛印沿岸は至るところ其の上陸の危險に暴露したると共に其の優勢なる海空

0649

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

軍を以てする我本土との連絡遮断並佛印内への爆撃に依る原住民の動揺を予想せられ茲に佛印は從來の兵站的立場より防衛の第一線たるの性格に変化し戦略第一線たる性格に変化し速急に戦備を強化し而も海上連絡の杜絶は全く自活自戦の途に依らざるべからざるに至り軍は開戦以來始めての重大なる決心を採るの要に迫られたり

二、緬甸作戦失敗の影響

インパール作戦の失敗に引續く英支軍の反撃は緬甸方面軍をして中部緬甸以南に態勢整理を余儀なからしめ印支ルートは再び復活對佛印支那軍戦力の増強も予想せらる軍は北部佛印國境に在る二十數ケ師の支那軍の積極活動を予期するを要し同方面の防衛強化亦忽せにすべからざるに至れり

三、佛印軍の動向

我軍の東西兩正面に於ける頽勢著はるるや佛印軍は對日戦備強化を企圖せるものの如く陰に原住民の徴募を開始し殊に比較的温順新日

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

傾向を有する安南人を避けて未開發性のモイ族、ラオス族等を徴募し且是等の多くを東京師團に編入せるは其の將來に於ける支那との關係をも予察せしめられ注目を要するところなり

第二節　第三十八軍戰鬪序列下令（出所記憶）

一、昭和十九年末に於ける駐屯軍の情勢判斷

比島作戰失敗の結果佛印は南支那海を隔てて直接米軍の攻擊に直面し駐屯軍は之が防衛施設を急速に確立するの要に迫られ他面緬甸戰況の不振と共に南方軍は馬來、泰の速急戰備强化の必要を認め茲に印度支那半島を中核とする南方軍綜合防衛計畫を樹定し防衛基本兵力を以て二師團及二混成旅團とし其の防衛の重點を北部佛印とする如く指示せり駐屯軍の敵情判斷左の如し

米軍は比島攻略後在支米空軍と呼應し佛印に對する爆擊を强化すると共に米支直接連絡の爲海南島を次で南支沿岸又は北部佛印に上陸を企圖すべし而して其の時期は呂宋作戰の成果に由るべきも早くも

0651

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五月以降なるべし

南部佛印に對しては右と同時に其の政略目的達成の爲支作戰を行ふことあるべし

當時歐洲よりドゴール派傳軍の東亞回航の情報あり佛軍の佛印上陸は英軍の馬來攻略との關聯あるべく目下のところ速急實現の公算少し而して米英軍の東西呼應する印度支那半島攻擊は空軍を以てする外差當り其の算少なかるべし

米軍の南支沿岸又は北部佛印上陸に呼應し西南支那に於ける支那軍亦同時に佛印國境方面より之に氣運攻擊すべし然れ共當時支那派遣軍は一號作戰遂行中にして西南支那の支那軍は之に吸引せられ未だ米軍との關聯ある動靜は偵知するを得ず纔かに緬甸作戰の進展に伴ひ雲南遠征軍の一部逐次昆明方面に移動中との情報ありしも一號作戰との聯關に依る兵力轉用なるべし

三、第三十八軍戰鬪序列の下令

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

印度支那駐屯軍は佛印守備軍たるの性格に於て其の特質を有したるも今や四圍の情勢は作戰軍たるの性格保持の必要に基き昭和十九年十二月印度支那駐屯軍司令部は第三十八軍司令部と改稱せられ第三十八軍の戰鬪序列を令せらる其の大要左の如し

軍司令官　中將　土橋勇逸

第三十八軍司令部

第二十一師團

第三十七師團

獨立混成第三十四旅團

獨立混成第七十旅團

獨立野戰高射砲第六十二中隊

南方軍第五通信隊

第三十八軍野戰兵器廠

同　自動車廠

0653

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

同　貨物廠
同　兵站病馬廠
同　軍馬防疫廠
南方軍第一慰兵隊
其の他　輸送及衛生機關

土橋中將は既に十一月町尻中將と交代十二月四日到著せり
第三十八軍戰鬪序列下令に從ひ編成を命ぜられたる南方軍第五通信隊各補給廠等の軍機關は昭和二十年四月編成を完結せり

三、第三十七師團の佛印派遣

佛印防衛上の必要に基き第三十七師團を昭和十九年十二月十九日印度支那駐屯軍に次で第三十八軍の戰鬪序列に編入せられたり
同師團は五月以來支那派遣軍の實施せる一號作戰に參加北支より漸次南下しつつ昭和二十年一月其の先頭を以て佛印國境に到著せり

0654

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三節　一號策應作戰（出所　21D歸還員報告　元第三十八軍參謀　陸軍中佐　山本格男記憶）

一、作戰準備

昭和十九年四月以來北支地區京漢沿線に開始せられたる一號作戰は逐次中、南支に及び十一月桂林地區を攻略せり

麻屯軍は四月南方軍より一號作戰策應に關する内示を承け準備中なりしが十一月末之が實行に關する命令を受領す

軍は直に軍直轄の下に左記支隊を編成之を諒山附近に集結速に南寧附近を占領して第六方面軍の作戰を容易ならしむると共に南寧、諒山道を確保し第三十七師團、次で第二十二師團（後述）の佛印進入を容易ならしむべき命令を下達せり

編組左の如し

長　歩兵第八十三聯隊長　大佐　一宮　基

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第八十三聯隊
歩兵第六十二聯隊第三大隊
山砲兵第五十一聯隊第三大隊
工兵第二十一聯隊
獨立混成第七十旅團工兵隊
第二十一師團通信の一小隊
輜重兵第二十一聯隊第一、第四中隊
衛生隊、病馬廠の各二分一

三、作戰經過の概要

一、宮支隊は十二月二十八日諒山附近より國境を突破二縱隊となり南寧を目標とし前進せるも殆んど大なる抵抗なく十二月十日綏渌に於て第二十二師團の先頭部隊と連絡を遂げ茲に支那派遣軍との交通連絡を啓開せり

諒山、南寧間の道路は支那軍の破壞に依り荒廢甚しく支隊は全力を

0656

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

挙げて之が整備に努めたる結果中旬之を概成せるを以て一月十七日軍は之を佛印領内に撤退爾后該路は第三十七師團次で第二十二師團の一部を以て之を確保せしめ一宮支隊の編組を解く而して一宮支隊は在支間第六方面軍司令官の指揮下に入らしめたり

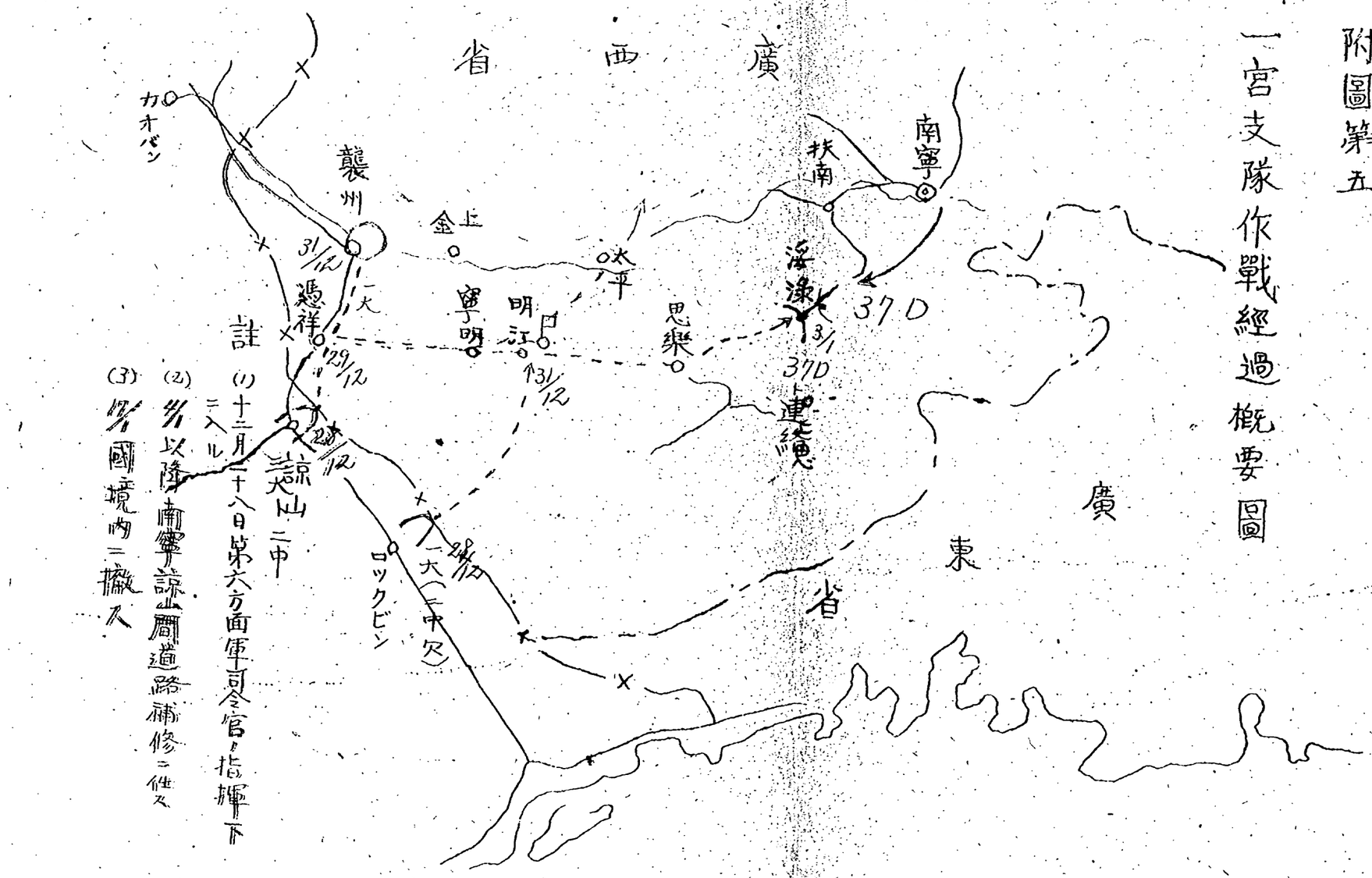
支隊の行動經過の概要附圖第五の如し

0657

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附圖第五

一宮支隊作戰經過概要圖



國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第四節　佛印處理（出所　酒井中佐記憶並歸還員報告）

第一款　佛印處理に至る迄の經緯

一、マ號作戰準備

東西に於ける日獨の形勢漸く不利の狀勢萌芽に伴ひ佛印當局の機微なる態度を察し昭和十九年三月駐屯軍は南方軍より万一佛印處理の必要生起の場合に於ける作戰準備を命ぜられ之をマ號作戰準備と稱したるも特に大なる準備をも行ふことなくして推移せり

二、佛印處理に關する準備

南方軍總司令部の西貢移駐と共に當時に於ける佛印情勢特に自主的防衛態勢速急整備の爲万一の場合には武力を以て佛印を處理すべき要あるべきを考へ駐屯軍は之に基く具体的計畫を立案するに至れり

三、兵力準備

万一の場合の武力處理は佛印地域の現在兵力を以て實施すべき考案なりしも駐屯軍に於て各般の研究の結果佛印軍の保有予想兵力九万

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

に對し我の三万を以てしては短期間の成功困難なりとの結論に基き支那方面より第三十七師團（長　中將長野祐一郎）を次で昭和二十年一月十三日第二十二師團（長　中將平田正判）を南方軍の戰鬪序列に入れ之を第五十八軍の指揮下に入らしめられたり兩師團は一挑作戰の進展に伴ひ逐次佛印國境に到著し第三十七師團は一月末其の全部隊を以て佛印に入り海防、バクニン諒山、高平モンカイの地區に配置す又第二十二師團の先頭聯隊たる歩兵第八十五聯隊は二月中旬北部佛印に到著し其の主力は諒山正面の支那國境内に集結せり（此の間一大隊を獨立混成第三十四旅團に配屬せり）右兩師團は昭和十九年五月以降連續作戰に從事せる爲兵力殆んど半減しあり

南方軍は緬甸に在りし第二師團（長　中將岡崎清三郎）を一月中旬第三十八軍の指揮下に入らしめたるも第二師團の大部は當時中部緬甸の作戰に從事中にして到著掌握せる兵力は歩兵第二十九聯隊基幹のものに過ぎず又泰國靜謐保持の爲スマトラより第三十九軍地區に

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

X 聖岬
○ サンチャック（以下同じ）

轉用せられたる第四師團の一部をウドン附近に配置し一時第三十八軍司令官の指揮を承けしめられたり

昭和二十年二月末に於ける軍兵力配置の概要附圖第六の如し

四 海軍部隊の指揮下編入

戰局の進展に伴ひ南方方面陸海軍統帥組織强化の必要に基き南方方面に在る全海軍部隊は其の陸上作戰に關し南方軍の指揮下に入ることとなり佛印に在る第十一特別根據地隊司令官は一月第三十八軍司令官の指揮下に入る

軍は各地海軍部隊をして各々所在地區陸軍警備隊司令官の指揮下に入れ根據地隊司令官を軍司令官直屬とし西貢岬（サンデヤック）海軍地區の防衛を擔任せしめたり

五 當時に於ける一般情勢

昭和二十年一月上旬米軍は呂宋島に上陸下旬には呂宋平地は全く敵の領有下に在り他方十二月パラワンに上陸せる敵は直に飛行基地を

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

設け二月上旬以來一乃至二機毎に偵察の爲飛來せり（比島基地のものは三月に入るも尚佛印に對し活動の徴なし）一月十二日敵機動艦隊は南支那海に進入西貢を空襲し我航空施設、飛行機埠頭施設に相當の損害あり現地住民の恐怖漸く大なるものあり之より先一月九日にはB29數十機カルカッタより飛來空襲ありしも佛印軍兵舎を爆撃佛印軍に若干の損害ありしのみなり

北部佛印に對する敵機の攻撃は年末以來天候の影響もあり爾後全く來襲なし

此の間軍は佛印内部に於て絶えず留意すべき情報を入手せり曰く、佛人諜者の空中より潜入、及之と印度、支那との無線連絡、曰く、FFI團の潜行活動、ドゴール總督の日本誹謗演説とドゴール謳歌、現地住民の募兵と佛印軍の郊外又は田園方面への分散並之が防衛築城の實施等之なり今や佛印は明に對日敵性を示し乍ら尚聯合軍の到著迄表面を糊塗せんとするの狀瞭然たるものあり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六、佛印軍はの兵力、素質、配置判斷

陸軍兵力は正規兵、保安隊を合し約九万三千にして東京師團、安南獨立旅團、交趾支那師團の二師一旅を佛印軍司令官之を統率し東京師團を北部佛印に、安南獨立旅團を中部安南、ラオス地區に、交趾支那師團を交趾支那及カンボヂヤに夫々分散配置し配置の重點を北部佛印におけり

正規兵を除き一般に部隊訓練未熟、軍紀嚴正ならず昭和十九年末頃より夜間訓練、山地踏破訓練、集成部隊の訓練を重視し戰鬪能力の向上に留意しあり

裝備は小銃、重火器山砲級の火砲のみにして新式のものとの更新たく近代戰に即應するものとは認め難し

海軍兵力は佛印駐屯艦隊を有し海防艦級を主体とする小艦艇約十數隻に過ぎず主力を西貢、翠岬に配置す

航空兵力は舊式偵察機を主体とし十數機を以て北部佛印に配置す

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

9　尚北部佛印諒山ドンダン、ラオカイ等には堅固なる要塞を建設し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

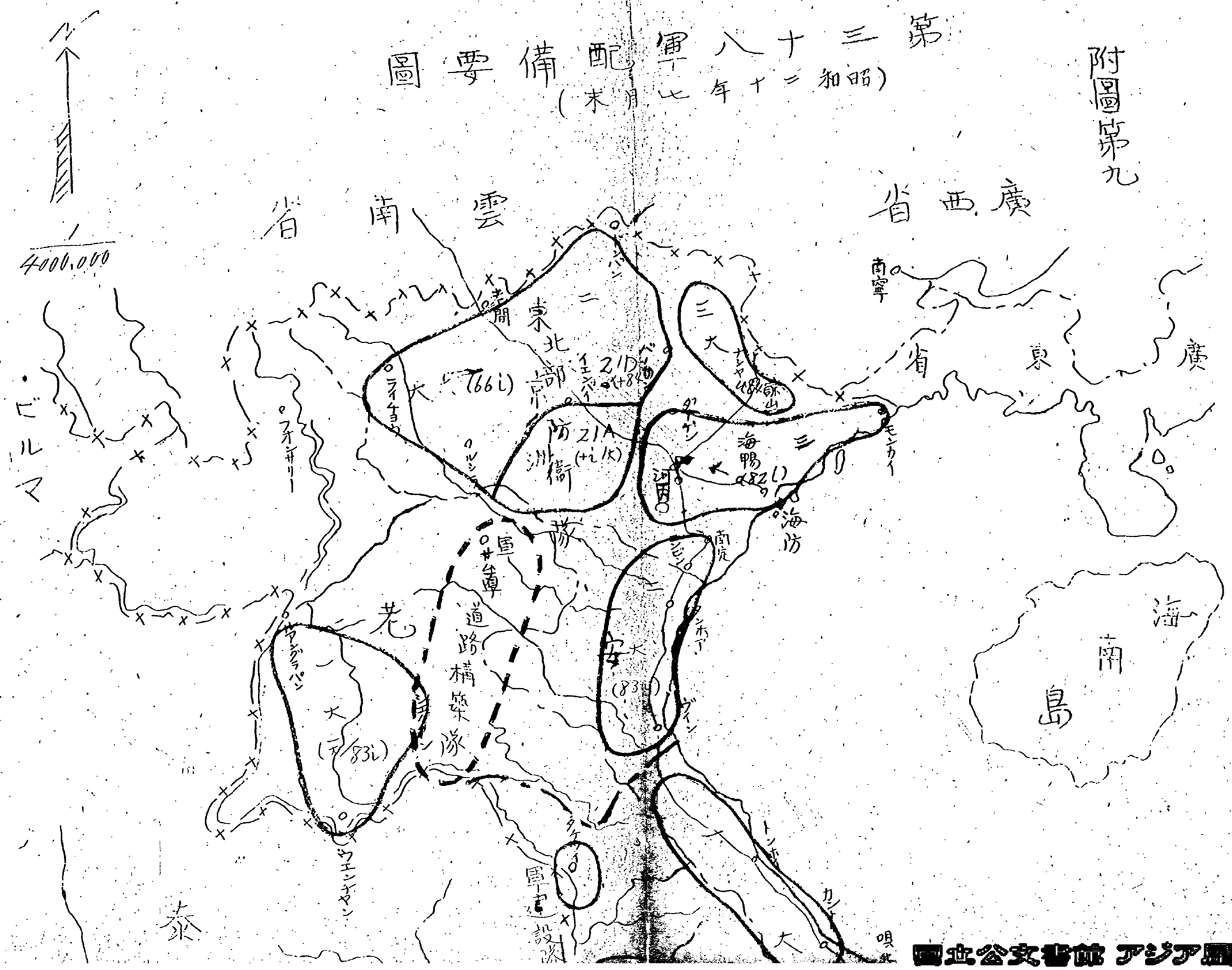
分割撮影ターゲット

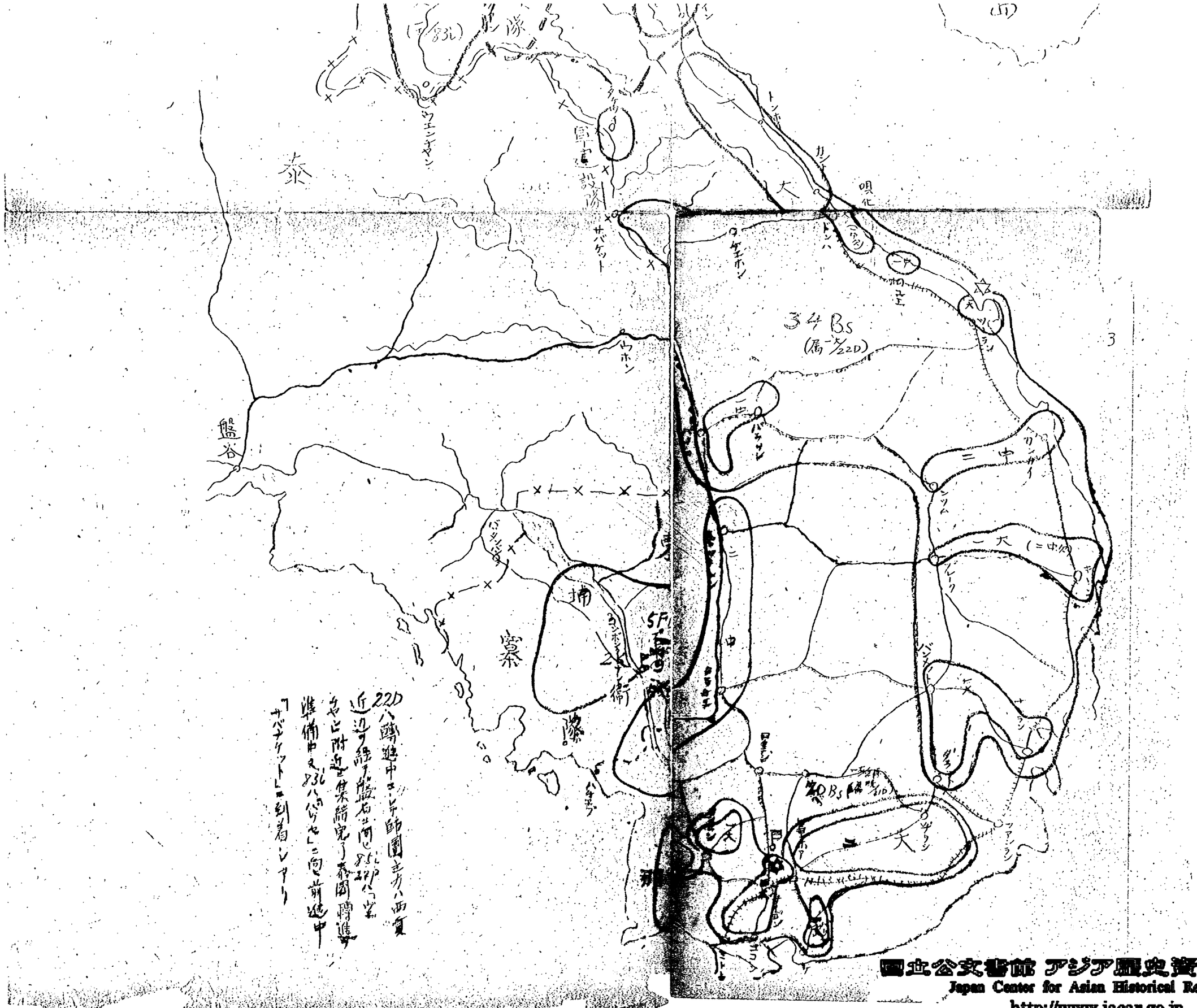
分割した部分の撮影順序	1 2
分割撮影した理由	A３版以上のため
文書等名	第38軍配備要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附圖第九

第三十八軍配備要圖
（昭和十二年十月末）


1/4000,000
雲南省
廣西省
廣東省
南寧
海防
海南島
ビルマ
タイ
老
安
南
北部
防衛
第二
第三
第一
第二
第三
第一
第二
第三
第一



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二款　處理の實行

一、松本大使ドクー總督の會見

昭和二十年三月九日一八〇〇我が松本大使はドクー總督を西貢佛印總督府に訪れ先づ軍費要求並に軍用米收買に關する希望を述べたる後左の要望を提示す

全般情勢特に米軍の印度支那領域に對する武力行使の事實並に其の趨勢に鑑み我國は印度支那の防衛を全うする爲日佛印共同防衛の根本請神に基き仏印總督が米英の印度支那に對する武力行使に對し我國と協力し飽く迄印度支那を防衛すべき旨の明確なる決意の具体化として左記に同意せんことを要望す

(イ)現事態の續く限り佛印軍及武裝警察隊は我軍の統一指揮下に入らしめ部隊、兵器、資材の編成、配置、移動等に付全面的に其の指示の下に行動せしむること並に鐵道、海運、通信等作戰上必要なる機關を我が軍の管理下に置くべきこと

0667

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

(ロ)佛印全機能に對し我國の要請に對し全面的且忠實に協力すべき旨を即時指令すること

(ハ)二時間内に前二項を全面的に受諾すること

右期限經過の上は日本軍は佛印總督府に共同防衛の誠意なきものと認め所要の手段を講ずべきこと

三、我が要望に對する佛印側の回答と軍の處置

我が松本大使より「クー」總督に手交せる要望書に對する回答は期限より遅れ二十二時十五分佛人士官より松本大使を經て軍司令官に到著せるも回答期限の延期と日軍武力發動の中止を要請せるものにして滿足すべきものに非ず即ち軍は止むなく、二十二時十七分全部隊に對し武力發動を命令せり

第三款　第一期經過の概要

一、全般經過の概要

各部隊は命令を受領するや一齊に行動を開始し南部地區に於ては順

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

調に經過せるも北中部特に北部に於ては河内、諒山、順化等に於ける抵抗意外に頑強にして河内、順化は十日夕刻に至り諒山は十四日に至り漸く之を降伏せしむるを得たり

我が武力處理の成功と共に十日早くも安南は自發的に獨立を宣言續いて東南亞亦獨立を聲明せり

二 北部佛印に於ける經過の概要

河内ヌタデル兵營の戰鬪意志は意外に強く歩兵第八十二聯隊は徹宵攻擊せるも纔に兵營の一角を奪取せるに過ぎず敵の迫擊砲彈は第二十一師團司令部附近にも落著せり

師團長は師團の豫備兵力たる一大隊をも之に加へ聯隊長又河内市内の他目標の處理を終りたる部隊を之に投し合計三大隊の兵力を以て十日拂曉より攻擊を強化せるも容易に占領する能はず我が山砲の支援を以て遂次攻略の强行法を採用し十六時敵は其の燃料倉庫を爆發せしめて我に投降せり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

諒山地區處理に任じたる第三十七師團の一部は九日夜其の兵營の處理を完了せるも要塞内に在る佛印軍の抵抗は頑強を極めたり當初之が處理は歩兵一中隊に依り實施せるも其の組織的火力の爲中隊長以下多數の死傷を生じ成功せず十日拂曉一時之を後退せしめたり次で一大隊を以て第二次攻撃を實施せるも容易に占領する能はず第三十七師團長は此の情勢を見砲兵主力を投じて之を統一攻撃せり

十四日第三十七師團長は新に增加せられたる第二十二師團歩兵一聯隊を加へ統一的指導の下に之を攻撃夕刻之を攻略せり

爾他の目標は大部分九日夜間に於て夫々占領十日には之か掃收を終りたるも佛印軍の逃亡は意外に多く其の數二萬乃至三萬と判斷せられたり

保安隊は河内に於ては一部の抵抗するものありしも大部は無抵抗我に投降其の武裝を解除すると共に所要のものは直ちに之を治安維持

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

上必要なる配置に就かしめたり

經濟、金融機關、電氣水道等の諸機關の接收に當りては佛人安南人の協力の下に何等の遲滯なく實施せられたり爾後軍は是等の佛人の大部を其の儘現業務に從事せしめたり

三、中部佛印に於ける狀況

順化佛印軍兵營に對する攻擊は獨立歩兵第百八十九大隊を以て實施せしも佛人將兵就中隊長の戰意旺盛にして地の利を恃み容易に降らざりしも十日午后に至り隊長負傷と共に戰意挫折し投降せり

其の他の地區に於ては概ね豫定の如く處理を完了せるも我が兵力の僅少なりし關係上重要目標を數段に分ち攻擊せる爲數千の佛印軍にして山間に逃亡するの時間的の餘裕を與へしめたり

四、南部佛印に於ける狀況

第二師團獨立混成第七十旅團共殆ど大なる抵抗を受くることなく處理に成功し十日西貢市内は既に全く治安回復を見たり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

佛印軍の一部は南方デルタ地帶及北方山地に逃亡せり

五、現地人の動向

我が武力發動と共に現地人の大部は一齊に歡喜し夫々自國獨立達成の機至れりとし對日依存感は頓に增進せり然れども一部現地人は徒黨を結び混亂に乘じて佛人を襲ひ掠奪を擅にし爲に軍は之等暴徒鎭壓に一時兵力を分割せざるべからざるに至れり又支那側に脈絡あり、と思惟せらるる越盟軍は我に敵意を示し治安攪亂を圖るの徵逐次顯著となれり

現地佛蘭西人中謀略の本源たるFFI團に屬する者は軍に於て一齊に檢擧し他の一般佛人の行動は全く自活なり然れども表面上何等不穩の形勢を齎したるものなし

第四款　第二、第三期經過の概要

一、全般經過の概要

主要地域の佛印軍の處理を三月十日を以て概ね完了せる軍は引續き

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

交通要線に在る諸都市機關、保安隊の占領接收を開始すると共に交通通信機關、施設の接收運營を開始せり之等は現地人の好意ある態度に依り全く何等の摩擦を生ずることなく目的を達成全佛印要線上の治安、交通は全く舊に復せり

前項の如き處理を終りたる軍は直ちに奥地に逃亡せる殘存佛印軍の掃蕩を開始せるも敵亦巧に行動し且地形の險峻、交通の不便等に災せられて意の如く進捗せず他方北部佛印に於ては越盟軍の跳梁あり軍は之が討伐の爲に相當の兵力を必要とし軍の希求する作戰準備には容易に著手するを得ず即ち軍は治安肅正討伐の爲將來長く軍を分散配置するの不利を憂慮し四月下旬徹底的肅正の爲一般作戰準備を一時中絶軍主力を擧げて北、中部佛印の討伐を實施す其の成果必ずしも十分なりしとは認め得ざりしも戰局全般の情勢は之以上作戰準備の遷延を許さざりしを以て五月十五日を以て討伐を中止せり

南部佛印に於ては四月末迄に概ね奥地の治安も回復し作戰準備に著

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

手せるも北部に於ては依然越盟軍の活動盛んにして農村に於ける米の供出收買意の如くならず之が爲五月中旬以降に於ても一部小部隊の分散配置を必要とせり

二、北中部佛印に於ける狀況

逃亡佛印軍の多くは老撾山中に其の一部は安南山系内に徘徊しあり之が爲老撾地區は第二十一師團に於て中部地區は獨立混成第三十四旅團之を擔任討伐を實施せり即ち第二十一師團方面に在りては第二十二師團より配屬せられたる歩兵第八十五聯隊を以てサムヌア附近を歩兵第六十二聯隊の一部を以てソンラーライチョー道方面及北部ラオス地區の討伐を實施せしめたるも交通特に我が機動力の不足に依り十分なる目的を達せず又ウエンヂヤン附近に一時指揮下に入りたる第四師團の一部をして蹂正せしめたる後四月中旬原所屬に復歸せしめたり

獨立混成第三十四旅團方面に於ても地形に阻せられ努力に比し成果

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

大ならず却て我が小部隊は敵の奇襲を受くるものあり又タケク、クラチエ道にも時々敗殘軍出沒交通を妨害せり

第三十七師團地區に在りては諒山附近の警備を第二十二師團に讓り鋭意管内の治安肅正に努めたるも太原を根據とする越盟軍の活動は廣く高平河内北方地區に及び第二十一師團と共に之が肅正に苦心せるも大なる成果もなく四月轉進の命令を受領せり

三、南部佛印に於ける狀況

敗殘佛印軍に對し三月末デルタ地帶を四月中旬以降第二師團を以てクラチエ東方地區を討伐相當の成果を得たり爾後南部佛印は概ね平穩なりしも之に反し四月以降比島米空軍の攻擊は漸く熾烈を加へたり

四、經過の大要附圖第七の如し

0675

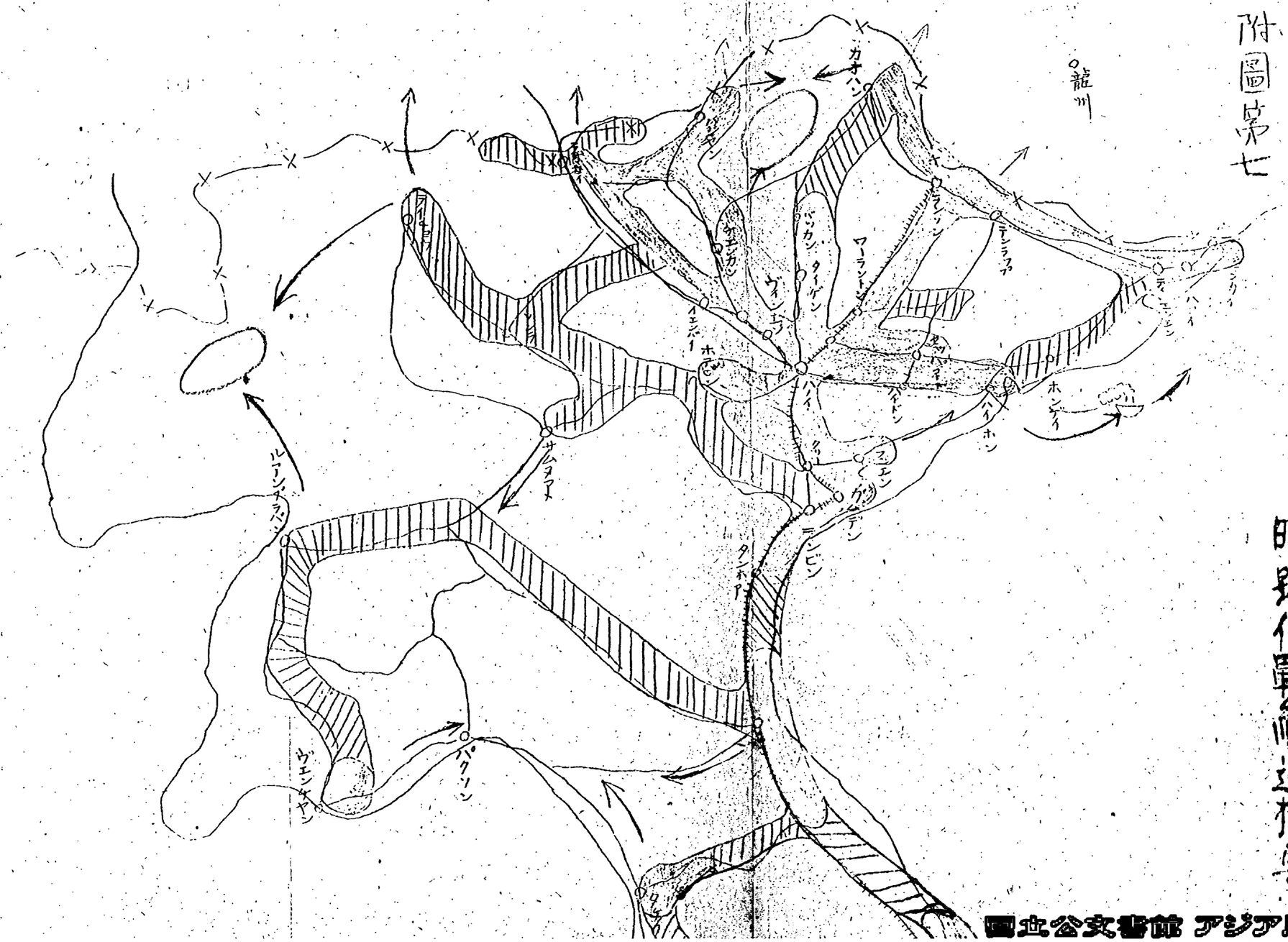
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	1 2
分割撮影した理由	A３版以上のため
文書等名	明号作戦経過概要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

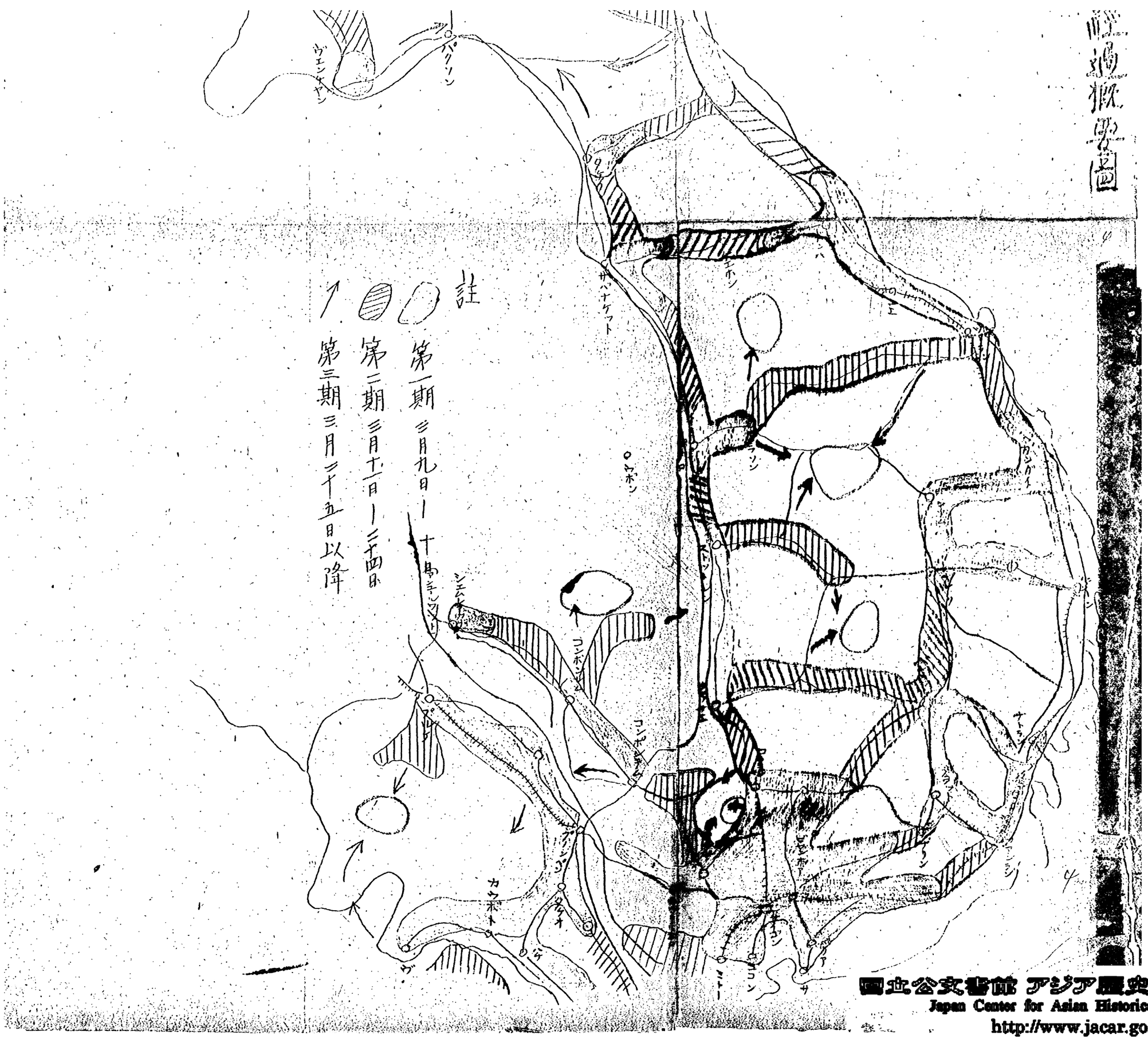
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附圖第七



明號作戰經過概要圖

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第五節　佛印處理より終戰に至る間の狀況（一出所記憶）

第一款　佛印處理後に於ける狀況判斷

全般の戰局の推移有利ならざるも我軍の佛印處理に伴ひ日本軍獨自の方策を強力に防衛施策の上に遂行し得るに至りたる爲米軍の佛印進攻の時期は當初の豫想よりも延期せらるることあるべきを豫察せり即ち既に佛印軍は解隊し米軍は上陸後直ちに之が協力を得ること能はざるのみならず佛印進攻は米軍として今や戰略的意義少きに至りたれはなり殊に四月一日其の沖繩上陸に伴ひ米軍の極東使用兵力にも餘み早期の短期間中の佛印上陸は極めて公算少なく只佛軍の上陸の場合又は雲南又は西南支那軍の攻勢に出づる場合之に策應又は援助の爲米軍一部の上陸作戰を實施することあるべしと判斷せり而して其の時期は固より何等判斷の根據を有せずと雖も秋期以降の候に於ては可能なることあり得べしと推斷せり是れ緬甸方面雲南遠征軍の西南支那轉用漸く活潑化し彼が精鋭を誇る新編第一軍及第六軍、第八軍は八月末頃には桂林附近に集結し隨

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

時約四十師の兵力を以て攻勢に出づる態勢を採り得べきと既に印度に到著しありと判斷せらるる歐洲より派遣の佛軍か英軍の馬來進攻の進展に伴ひ佛印に進出し得るは早くも九、十月の候以降なるべしとの判斷に出れり

第二款　軍兵力の增減

一、第二十二師團の戰鬪序編入

昭和二十年三月三十日第二十二師團は南方軍戰鬪序列より第三十八軍戰鬪序列に編入せられたり而して同師團は諒山附近の防衛を擔任し又歩兵第八十五聯隊は第二十一師團長に屬し老撾地區の掃蕩に從事中なり

二、第三十七師團、獨立混成第七十旅團の抽出

緬甸方面の戰況に鑑み南方軍は急遽泰、馬來の戰備強化を企圖し四月上旬第三十七師團及獨立混成第七十旅團の轉用を命ず

兩兵團共當時尙討伐作戰に從事中にして殊に第三十七師團の抽出は

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

同方面の治安特に爾後の作戰準備に影響し作戰計畫の變更を必要とせり兩兵團は鐵道輸送に依り四月中旬以降逐次輸送を開始し六月下旬全輸送を開始し六月下旬全輸送を完了せり

大部の輸送を完了せり

三、第二十二師團主力の轉用と關外作戰

第三十七師團の轉用に次で五月上旬泰國防衛强化の爲南方軍は更に第二十二師團の轉用を內示し來れり軍は先に第三十七師團の轉用を命ぜられ茲に又第二十二師團を抽出せしめらるる時は北部佛印に於ける治安確保作戰準備は固より國境近く集中しある支那軍との均衡を失し防衛上極めて不利の狀態に陷るべきを察し再三意見具申する所あり且第二十二師團の轉進決定後に於ても之が開始の時期は第三十七師團の輸送後なるを以て尙相當の餘裕あり此の間我對支壓迫の一助とし且は第二十二師團の轉進を秘匿せんが爲龍州附近に對する關外作戰を計畫し南方軍の認可を得て師團主力を以て六月下旬之を實施し七月上旬國境內に反轉を開始せり

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

歩兵第八十四聯隊山砲一大隊基幹の部隊は當時高平附近に在りしが軍の意見具申に基き該部隊は依然軍に配屬せられ軍は之を第二十一師團に配屬せり

第二十二師團は六月中旬以降轉進を開始し歩兵第八十五聯隊はウエンチャンを經て八月上旬泰國に入り歩兵第八十六聯隊はウインタケツク、バクセ道をウボンに向ひ終戰時漸くバクセに達し他の師團主力は鐵道に依れり（終戰時は師團主力の後尾尙西貢附近に在りき）

四、軍司令部の河内轉進と配備變更

佛印武力處理後軍司令部は佛印情勢特に作戰上の必要に基き軍司令部の河内轉進を準備中なりしが準備完成に伴ひ五月上旬移轉せり西貢には指令所を殘置し南部地區に於ける軍政、兵站を處理せしめたり）此間三ケ兵團の轉用命令を受け軍は作戰計畫の根本的改正を行ふと共に所要の配備を變更し七月末概ね其の配置を完了せり其の前後に於ける配備附圖第八、第九の如し

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

五、西貢、河内防衛に就て

南方軍命令を以て「西貢、河内は之を確保」すべきを要求せられたるも三箇兵團の抽出後之が實行は至難なり軍は西貢、河内は已むを得ざる場合之を放棄すべき案を考慮したるも全般の要請は之が實行至難なるを以て所在小兵力（殘置補充兵等）を集合して西貢及河内に防衛隊を編成すべく準備中なりしが編成完結に至らずして終戰に至れり

六、海軍第十一根據地隊との關係處理

軍司令部の河内轉進と共に第二師團は司令部を西貢に移動し西貢附近防衛の任務を擔當せり然るに西貢には軍司令官指揮下の海軍第十一根據地隊司令官位置し先後任の關係は之が解決を苦慮する處ありしも六月中旬各〻分擔防衛地域（海軍は西貢埠頭聖港カムラン附近）を明確にし其の地域内の陸海軍部隊を作戰上指揮することとなれり

0682

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

七 第五十五師團の轉入と第二師團第五十五師團の戰力充實

緬甸に作戰せる第五十五師團（長中將佐久間亮三）は五月第三十八軍の指揮下に入らしめられ其の先頭は六月下旬金邊に到著せり（當初南方軍は之を金邊附近にて戰力を充實せしめたる後バクセ附近に集結南方軍の戰略豫備たらしめんと企圖せり）然るに同師團の戰力は意外に消耗し且之が緬甸よりの抽出輸送も困難にして急速なる戰力恢復は望み難く作戰上之に期待し得るは早くも九月以降と判斷せられたり

第二師團主力は佛印處理後に至り遂次緬甸より反轉し來れるも戰力の消耗大にして直ちに之を使用する能はず軍は先づ第二師團の戰力充實を急務とし航空地區部隊の整理に伴ふ餘剩兵力約二萬を南方軍より受領し內約六千を第二師團に優先充當七月には一應人員を充實したるも戰力特に裝備の充實尙十分ならず

第五十五師團は航空整理部隊の約一萬を以て戰力を補塡する如く著々實行中其の全部の完結を見ずして終戰に至れり

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	1 2
分割撮影した理由	A３版以上のため
文書等名	第38軍配備要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

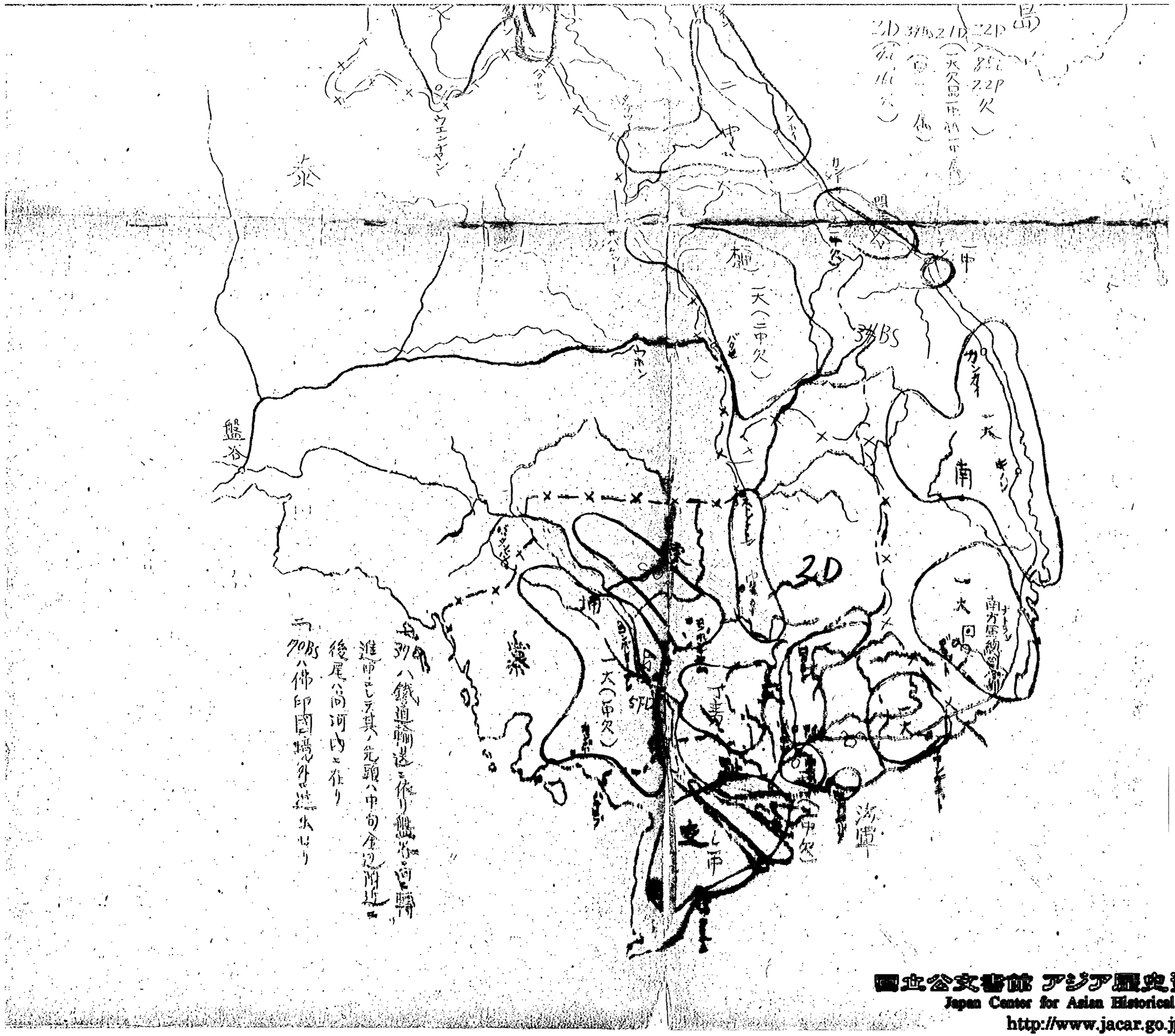
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附圖第八

第三十八軍配備要圖

（昭和十五年十二月）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp


泰
盤谷
南
2D
37BS
70BS
一大(二中欠)
一大(二中欠)
一大
一大
一大
一大
一中
一中
一中

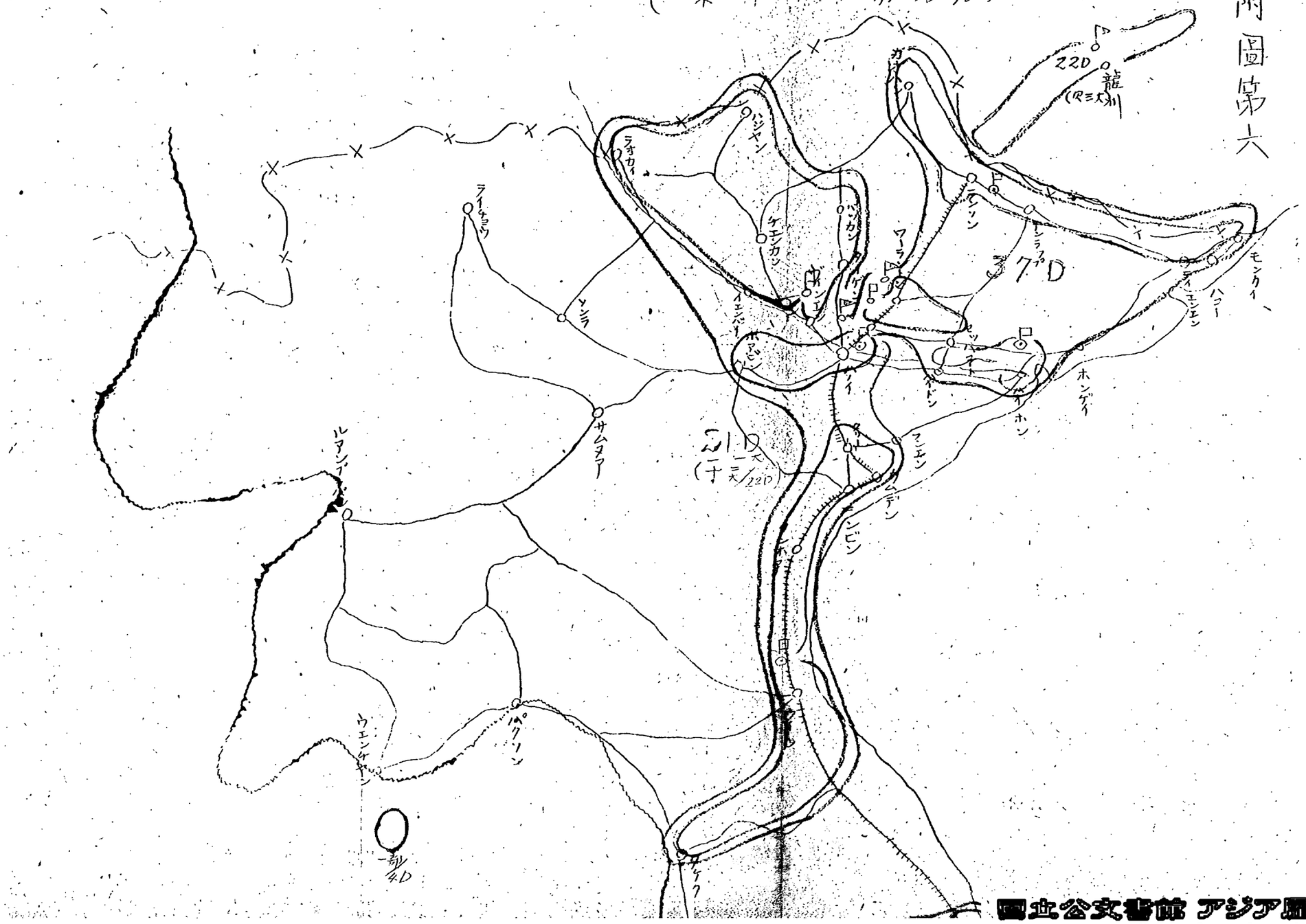
分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	1 2
分割撮影した理由	A３版以上のため
文書等名	第38軍兵力配置概要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附圖第六

第三十八軍兵力配置概要圖
（末年十二和昭）



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

中部防衛隊
南
総軍建設隊
ハノイ
ハイフォン
ラオカイ
ラオカイ
ハナケアト
ラオカイ
ハノイ
ハイフォン
ハノイ
ハイフォン
ハノイ
ハイフォン

第三款　作戰計畫の策定及之との關聯事項に就て

一、第三十八軍の任務

五月十五日南方軍より第三十八軍に與へられたる任務の大要左の如し

1. 佛印の治安を維持して之を安定確保す

2. 敵の來攻に當りては所在に之を擊破し佛印の要地を保持して敵の攻勢意志を破摧す

3. 河内、西貢は之を確保す

4. 米支地上連絡の遮斷

而して右は既往三月受領せる任務に比し國境進攻作戰準備、海南島に兵力派遣の準備を削除せられ且敵壊滅の任務を緩和せられたるも二師團と一混成旅團を轉用せられ且南部には第二師團主力未到著にして其の達成すべき任務過重の感なしとせざるも總軍の意圖實現に苦慮努力せり

0688

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

二、作戰計畫の策定

佛印處理後陸軍は直ちに作戰計畫の立案を進めたるも兵力の抽出と共に數次の變改を經て五月中旬之を確定六月上旬各兵團部隊に之が具現實行の命令を下達せり

作戰計畫の概要別冊第一の如し

三、作戰準備に就て

軍の作戰計畫は六月上旬に至り確定せるも之が準備は四月以降軍の企圖に基き各兵團毎に逐次實施せり

軍令令部はタケックに位置すべく六月以降之が施設を增强せり是に先だち北部佛印特に第二十一師團主陣地との連絡路たるサムメアーパクサン道は四月以降軍直轄の下に歩兵三大隊工兵一中隊國民軍約一万自動車三中隊を投じ建設を開始し途中第二十二師團關係部隊の抽出ありしも第二十一師團獨立混成第三十四旅團より若干の補充を行ひ終戰時には馱馬道として完成せり

國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第二十一師團は河内ホアビン地區に第二師團は西貢ロクニン地區に著々工事集積を進め獨立混成第三十四旅團亦逐次諸準備を進めつつありしが完整に至らずして終戰となれり

陣地の概要附圖第十の如し

四 終戰時に於ける第三十八軍隷指揮下部隊附錄の如し

0690

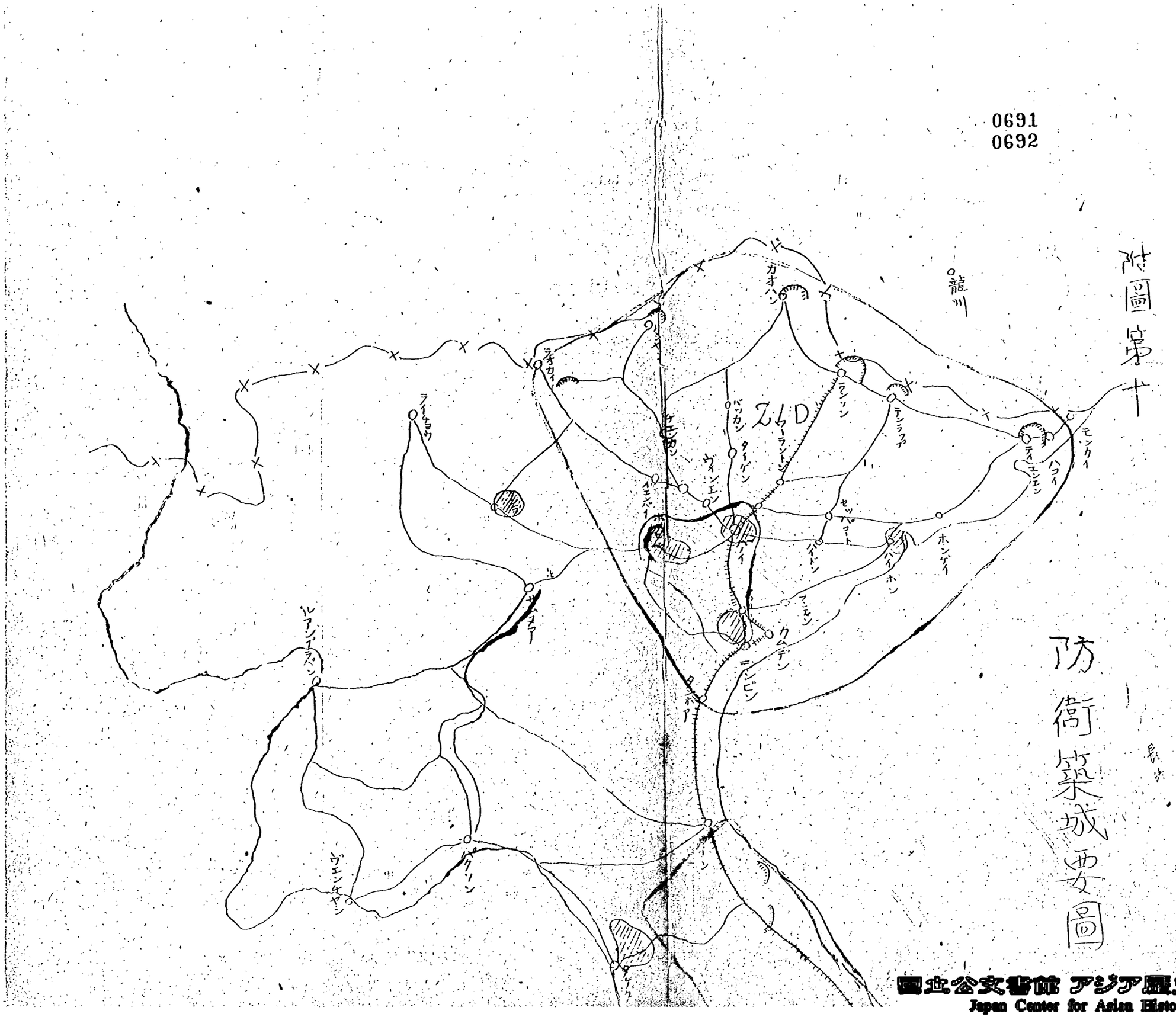
國立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	1 2
分割撮影した理由	A３版以上のため
文書等名	防衛築城要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

附圖第十



防衛築城要圖

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

米城要圖

一般防衛築城
游動隊（含築城）
複廓陣地
防禦陣地

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp